

田所は、預金残高を確認するために、銀行に電話を入れた。

「ありがとうございます。東京都民銀行上大岡支店でございます」

「あの、通帳の残高を確認したいのですが」

「かしこまりました。それでは、折り返しお電話でお知らせすることになります
が、よろしいでしょうか？」

「はい、結構です」

「それでは、お口座番号とお名前をお願いします」

「はい、普通預金の五五一九八二五、田所要です」

「銀行にお届けになっているご住所と、お電話番号をお願いします」

「住所は横浜市神奈川区高島台九一五一九五、電話番号が〇四五一九八一―五九
一五です」

「〇四五一九八一―五九一五ですね。かしこまりました。私、菊地と申します。
すぐにお調べして折り返しお電話いたしますのでお待ち下さいませ」

「はい、わかりました。ではよろしくお願いします」

受話器を置いてから数分後、電話が鳴った。

「はい、田所です」

「もしもし、東京都民銀行上大岡支店の菊地と申しますが、田所要様でいらっし
やいますか？」

「はい、そうです」

「先程お問い合わせいただきましたきました、普通預金残高を申し上げますがよろしいで
すか？」

「はい、お願いします」

田所はあわててメモの用意をした。

「ただ今の残高、五十五万九千五百九円となっております」

「五十五万九千五百九円ですか？ ええと、振込が一件あったと思うんですが」

「そうですか。どちら様からおいくらのお振込ですか？」

「加藤俊彦という人から九万五千円振り込まれているはずですよ」

「それでは振込の確認をしてみますので、少々お待ち下さい」

受話器からは保留メロディが流れ、数十秒後・・・

「大変お待たせいたしました。ただ今お調べしてみました。加藤俊彦様からの
お振込は、今のところないようです」

「確かに昨日、手続きを済ませたと言っていたんですけど」

「電信振込か文書振込、どちらで手続きされたかご存知ですか？」

「いいえ、わかりません」

「電信扱いですと当日入金になります。文書扱いですと入金迄に多少お時間を
いただくことになりますので、おそらく加藤様は文書扱いで振り込まれたのでは
ないでしょうか？」

「そうかもしれません。ではその場合、入金されるのはいつ頃になりますか？」

「通常は二、三日で入金となります」

「そうですか。早ければ明日には入金されるかもしれませんね。ではまた明日、
確認してみます」

田所は少しホッとした表情で受話器を置いた。